
機動古戦士コード〇ガンダム

もみもみじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動古戦士コード〇ガンダム

【Zコード】

Z8001Z

【作者名】

もみもみじ

【あらすじ】

戦争は一度終わった。人々は戦争の歴史と差別すべく、新しい歴史を生み出した。

しかし、人々の鬭争は終わらない。

いつしか、前の時代の兵器、MSを使つまでに到つていた。

これは、過去最強と言われたコードシリーズの番外機体、〇ガンダムを使う少年の物語

第一話　『起動』（前書き）

これは元々、単発小説でした
しかし、ブログの方で書いてほしいと依頼されたので連載となつて
おります。

第一話　『起動』

EH 17年。一つの歴史が終わり、一つの歴史が開始された。
しかし、人は戦争を繰り返していた。戦争により歴史が一つ終わ
つたというのに、愚かな人類は未だに続けていた。

その戦争に使われていたのは、大きな機械であった。人型や獣型
をしており、名はMS、MAと呼ばれていた。

「コード」と言われる特殊なMSがいた。前の歴史によつて生み出さ
れたMSで、その力はEH史上最強と言われていた。

「コード」には一つの単語によつて成り立つていた。例えば、量産を
重視した機体は、「コードネーム」と言っていた。機体の名前は前の歴
史の記録を参考に呼ばれていた。

「こいつは……」

その機体は人型をしていた。目は一つあり、赤い顎みたいな物と、
黄色い角が特徴的な顔をしていた。白い肌も特徴と言えた。

「コード」^{アクト}。MSなのに機動しない、ガラクタ……」

このMSは動かなかつた。パイロットが座る席もまともに機能し
ない。まさにガラクタである。コード^{アクト}Oはそこから名付けられた。
しかし、そのガラクタに乗つている少年は否定した。

「違う……。こいつはコードOなんかじゃない。こいつは……コー
ドOだ」

そして彼は、それに付け加えた。

「G……。じいさんのあの資料が正しいなら……こいつはガンダム
のはずだ！」

彼が見た資料の中のガンダムは、学習型コンピュータを持つてお

り、一つ、いや様々な戦争を終結させた機体と書かれていた。

「お前……そいつでやるのか？」

そこに、年老いた一人の研究者がやってきた。その顔には、苦悶の表情を浮かべていた。

「コードA 『アクセルデルタ』じゃもたないんだろう？ ならこいつしかない」

「動かないやつを使うのか？ 意味もないことをするのか？」

「死ぬならやるんだ！ やらないより、やるしかないだろ！」

そう少年は言つて、コックピットのハッチを閉じた。少年の周りがモニターに囲まれた。

「コード〇いや、コード〇！ 行くぞっ……！」

彼は機動するはずのスイッチを押す。しかし、動かない。

「動け！ 動いてくれ……。ガンダムなんだろ！ 戦争の終結者なんだろ！！ 頼む……動いてくれ……！！」

しかし、動かない。意識がないように動かない。

彼は涙を流しながら叫んだ。

「起きろ！ コード〇G！！」

「ぐう……」

コードA 『アクセルデルタ』のパイロットは苦戦を強いられていた。絶対的な加速力を持つていいA 『アクセルデルタ』が、ただ攻撃力が高いしか特徴がない、コードP Sに圧されていた。

コードA 『アクセルデルタ』にはビームライフルが搭載されていなかつた。速さを求めたこの機体に、銃という概念は必要なかつた。必要なのは素早く動き、敵が背中を向けた時に一撃で決める、ビームサーベルのみだった。

しかし、敵は翻弄されることなく、例え背中を切り裂こうとして

も、背中に皿があるかの如く全て受け止められてしまつた。

畜生

彼は気づいていた。純粋にパイロット技術が劣っていると。

殺られるのか?

従自身、諦めかけていた。バイロッヒに負けていた。

その日 話の蒸湯反戻が背後から現れた
彼はついでその熱源に反応かの後限してい。それをパワードザザバー

彼は意識が薄れていく中、白い機体を目にした。

「GOGO! ドードー」
ゼロガンダム

少年が乗った機体は、殴られたコードA 『アクセルテルタ』を避け、敵の目の前に出た。

「あれが……」「——ドレ

る。この間に、彼は、アーノルドを相手に、日本語を教わる。

「はああああああああああ！」

〇に乗つた少年は、叫ひながら「ムサーベルで切り掛かる。

何度も。何度も殴られる。

リヒタは頭に付いているノルガンで一度退いた

はあ はあ

「コードOGにはビームサーべルの他にビームライフルが搭載されている。しかし、ビームライフルにはエネルギーがなく、使用する

「手はないのか」

彼は思考した。「コードOGにも、何か特徴となる力があつてもおかしくなかつた。

しかし、見つからない。

「どうすれば……」

彼は諦めかけていた。そう思つと同時に、意識が薄れていく。

「コードゼロ……」^{ロゼ}

彼は最後に、そつづぶやき意識を失つた。

「コードゼロガンダム システムアウト
システムグローウィング カンリョウ
サイキドウ カイシ

「ま、だだ……」

失うわけにはいかなかつた。彼は諦めるわけにはいなかつた。
戦争を終わらせる。終わらせないといけなかつた。

ふと、彼はモニターに映し出されている字に気づいた。

「これは……」

そこには、 システム エボリューション と書かれて
いた。

「賭けるしか……ないつ……」

彼はモニターに映し出されたシステムスイッチを押す。

「うわあああああああ……！」

その瞬間、彼の体に電撃が走る。痛々しい。しかし、それを受け入れようとする。

「倒す。あいつを倒すー！」

少ホリ年の抱躋ハラフミと共にジーラカーベー

ンダムが彼に呼応するかのよひ。

出力が勝ったヒームサーベルにたたのヒームサーベルが勝つわけ
がなく、そのビームサーベル」とPSを切り裂いた。
そして、空に一つの光が生まれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8001z/>

機動古戦士コード0ガンダム

2011年12月25日18時50分発行